

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390101511		
法人名	株式会社 桜梅桃里		
事業所名	グループホーム和楽の家 みやす二番館		
所在地	岡山県岡山市東区吉井208番地		
自己評価作成日	平成30年6月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成30年6月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生き生きした生活をいつまでも続けていただくために、地域の方から毎週折り紙つくりの指導を受けている
 毎月の歌のきびだんご、隔月のハーモニカボランティア、年間行事としての銭太鼓、大正琴、誕生日のバースデーケーキを作ってお祝い、春夏秋冬の外食とドライブ等々色々なイベントを計画実行している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との繋がりが深く、入居者と地域との関わりが入居者の楽しみの一つになっています。運営推進会議で地域に呼び掛け避難訓練を一緒にしたり、高齢者にまつわる様々な研修を地域の方に向けて行なっています。今年から地域の課題解決に寄与する目的で「子ども食堂」を夏休みにに向けて企画しています。地域密着型の事業所として安心と信頼に向けたその人らしい生活支援に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家族のような暖かな雰囲気を作り、介護度が異なってもみんなで笑える家庭を作っている	理念の具体的な実践の一つとして「優しい介護」をモットーにコミュニケーションを大切に厳しい事も丁寧に、優しい言葉かけを心掛けながら、理念をわかりやすく職員同士共有する様に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々にボランティアとして活躍していただいている 銭太鼓、傘踊りの方々に定期的に来ていただいている	地域の方々が訪ねやすく恩師を訪ねてくる人もいます。又、定期的に訪れるボランティアの方など普段と違った地域の方々が訪ねてくると会話を楽しんでいます。	実践状況にもあるように、地域との繋がりによって入居者の生活の継続が可能になり、QOL(生活の質)向上に繋がることをイメージして続けてください。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々にご協力を依頼して年末にはご家族を含めて餅つき大会を実施している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の小学生を対象にグループホームで食事を一緒にする孤食プロジェクトを企画して地域の方々に意見を聞いている	地域貢献の取り組みとして、小学生を対象にした子ども食堂を夏休みから計画しています。また避難訓練参加の呼び掛け、勉強会など地域と関わる重要な場として機能する様努めています。	これからも地域の課題解決に関わり、地域と行政とのパイプ役としての機能を運営推進会議で話しながら果たしていける事を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター担当者と運営推進会議等で連絡を取って地域の方々へ情報を伝えている	担当部署以外の部署とも子ども食堂を進めるに当たり協働しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	窓の開放、裏玄関の開放、会社として身体拘束廃止に関する指針を作って対応している	定期的に身体拘束の研修会を実施し、介護者の為の介護ではなく入居者が安心・安全に暮らせる工夫をしながら、身体拘束をしないケアに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会に出席して知らず知らずに虐待にならないようスタッフ同士で注意できる雰囲気づくりをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様に成年後見制度を利用している方がおられ勉強するチャンスを生かしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居当日には十分な説明時間が取れないケースが多いため前もって書面をお渡しし確認をしていただいたり、入居後には不明な点をお聞きするようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でその都度意見交換質疑応答の時間を設け自由に意見を出していただく機会を持っている	家族から意見や要望を聞き、担当の職員を含め全職員が情報共有し、日々のサービス向上に反映する様努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行っているカンファレンスの中に会社の方針、業務の見直し等の項目を持って提案等を吸い上げるチャンスを作っている	年2回職員面談で意見や提案の反映に努め、移動、離職等なく安定した現場運営を心掛けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所のグループホーム兼本社で代表者は常にスタッフに挨拶を交わし意見の言える職場づくりを考えている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修情報などを休憩室にファイルをしったり見やすいところに掲示したり自己啓発する機会を持っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修情報を常に持ち知り得た研修内容をホームで勉強会に取り入れ実践している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のそばに寄り添って有限無限の言葉を聞いて本人の望みを理解し安心できる居場所づくりを行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様家族の方も不安な気持でおられるその気持ちをよく聞いて過去の様子趣味などを知って生活に取り入れている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の思いをお聞きし希望にこたえるように工夫しながら穏やかに過ごしていただけるように支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や食事、片付け、洗濯、洗濯干し、洗濯たたみを行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方と本人の気持ちが離れてしまわないよう出来事を伝え、面会時には行事の案内と参加のお知らせをしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある地域の話題と行事などをテレビや新聞で読んで思い出話をしている	入居前のモニタリングやカンファレンスに基づいて会話の糸口を掴み、拾い集めて本人がこれまで大切にしてきた人や場所・モノなど情報を記録に残し、支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	価値観の違う者同士がお互いに認め合えるようにそれぞれを尊敬の思いで接しその方々に合った話題を話しながら孤独にならないように支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退去した後も電話連絡をして家族の相談などに対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様個々に合った声掛けをして、表情・顔色・食事の摂取の状況確認しながら自己決定しやすい環境づくりをしている	日々の支援の中で本人を理解するよう努めています。掃除・洗濯の仕方などこだわりのある方、それぞれ一人ひとりの意向を大切にし本人本位に出来る様検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人が安らかに自分らしく暮らしていくことを支援し愛着のあるものを身近に置き安心していただきながら生活の中でその人らしい生き方が出来るようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様が一番過ごしやすい空間を作り一人でも多くの入居者様の笑顔が出るような環境づくりに努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人の考えではなく本人をよく知る関係者が気付きやアイデアを出し合い話した結果をもとに作成している	意思表示の難しい入居者のリスク回避のプランが多く、QOL(生活の質)に関する事はその都度見直しケアの実践に繋げています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の日々の生活リズムを知り少しでも動き方に変化があれば記録に残しスタッフ間で共有し介護計画の見直しに努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の体調を考慮しながらその時のニーズに応じて入居者に合った柔軟なサービスを取り込んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントに積極的に参加地域の方々から多くの声掛けをいただいている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	委託医師、看護師とスタッフが密にいつでも連絡を取り合い家族や入居者様が納得のいくように支援している	法人社員の看護師が毎週入居者の健康チェックを行い、2週間に1回の往診時は当該看護師も同席し日々の状態を医師に伝え健康管理と適切な受診支援に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の入居者様の変化を看護師に報告相談して適切な対応をするように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には治療が終わり次第出来る限り早期の退院が出来るように病院と連絡を取っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今のところ重度化された方はおられないが、今後の対応として看護師スタッフが先頭になって勉強している	現在看取りの経験はなく急変した場合、入院という方法をとっています。看取りを希望する家族が多く終末期に入った時点で医師、看護師と今後の可能性と緩和ケアについて話し合い、家族、本人の意向を大切に支援への取り組みが始められようとしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	万が一の対応の為AEDを設置いつでも利用できるように体験勉強会を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回入居者様と避難訓練を実施している また、運営推進会議で地域の住民の方々への協力を呼び掛けている	地域の方と一緒に避難訓練を行っており、その際地域の方から忌憚のない意見を頂き具体的な対策を話し合って今後の課題として取り組むよう努めています。	今後も地域との連携を続け、地域の災害避難訓練にも参加し、さらに地域との共同災害対策に取り組んでいける事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々人の気持ちの思いを傾聴しながら尊厳やプライバシーの配慮を心かけた対話に努めている	入居者との関わりが長くなると馴れ合いになりやすく、不適切な対応にはその都度注意を払いながらその人らしさを大切にされた対応を心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	寄り添う中で自分の望みを話されることがありその事柄を他の職員と共有し自己決定できるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今まで通りの生活を尊重しながら和やかで張りのある日常生活を送って頂けるよう配慮している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴し清潔を保持し好みに合った清潔な服を着用していただくようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様が楽しみながら食事ができるように楽しく語らいながら共に食事をするよう努めている	食材を業者から仕入れて、仕込みや下拵えに時間を掛けられるようになった。会話を楽しみながら個々のペースで食事をし、片付けも入居者自ら手伝ってくれます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好を考慮しながら栄養量、水分量、顔色、表情、体調を観察しながら支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態に応じた支援をしている 毎食後必ず口腔ケアの声掛けをしている、また、歯磨きがきちんときれいに行っているかチェックさせていただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記録し一人一人の排泄パターンを確認しながら誘導や声掛けをしている 一人一人の人格を尊重しながら支援している	排便をチェックし適宜便秘対策をしながら健康管理に繋がっています。夜間1度は声掛けをトイレでの排泄を促し、無理のない様睡眠を優先してパット等の利用もしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト、牛乳等を取り入れ水分の摂取を記録しながらしっかり摂取していただいている、栄養バランスの良い食事にも努力し便秘予防を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人で入浴できる方には見守りをして安心して入浴していただいている。一部介助、全介助、一人一人の状態、希望を考えて対応し気持ち良い入浴支援を行っている	入浴時ゆっくりと落ち着いて話をする機会になっています。入浴拒否をすることもあります。浴室に誘導すれば入浴できています。最近、入浴拒否は少なくなり共に楽しい入浴支援が出来ています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべくホールに出てきて活動を促し夜間良眠出来るよう生活リズムを整える支援をしている。一人一人の体調を考慮し安眠や休憩の支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成していつでも情報を確認できるようにしている。服薬時は職員が二人で確認したうえで必ず手渡しをして飲まれるまで目配りしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喜びや日々の楽しみなど気分転換の支援を心掛けている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望を聞き出来ることを家族、地域の人と協力しあい外出する支援をしている	出掛けると近所の方が声を掛けてくれ関わってくれます。介護度が高い方には体調に合わせて車いすで外気に触れたり、窓を開けて空気の入れ替えをしたり、窓から外を見たり気分転換に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望等に応じて外出時に使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に年賀状を出したりいつでも電話をつないでいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分には季節にあったお花を生けたり、貼り絵をしていごごちの良い空間を作っている	入居者のその日その日の状態を優先し思い思いに過ごせる様、又業務優先でなく共に時を過ごすよう心掛けています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部分ではテレビ、カラオケ、CD、有線等を流して一人一人の希望をかなえている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の好みを尊重し特に移動時には障害とならないよう安全を心掛けて、必要以上の物は置かないよう配慮している	各居室の入り口ののれんが共用空間と居室の境をやわらげ居心地よく過ごせる工夫に繋がっており一人ひとりの居場所づくりになっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を最大限生かせるよう補助用具を活用したりきめ細かい見守り等で生活環境に応じた支援を行っている		